

平和集会の内容

ねらい

墨田区に 1945 年 3 月の大空襲があったことを知り、それを乗り越えて今の墨田区があること、多くの人の願いが今の墨田区をつくりあげたことを実感し、自分も平和な世界をつくっていく一人であることに気づききっかけになってほしい。

台本 飛木稲荷神社に残るイチョウの木を扱った日野多香子さんの絵本「七本の焼けイチョウ」を読み、実際に稲荷神社の境内を訪ね、木の様子を観察しました。それらをもとにして、以下のような台本を作成し、6 年生がオリジナル画を作成し、集会を創り上げていきました。

平和集会 令和 4 年 3 月 11 日 台本

・スカイツリーを見上げる町の景色が映る。

子供① ああ、どこだろうここは。スカイツリーが向こうに見えるんだから、立吾はどっちだ。 子供② おまえが、小村井駅の向こうへ冒険しようって言うから来たんだぞ。でも帰り道分からなくなったよ。

子供③ あっ、バス停がある。「とびきいなり神社入り口」だって。

子供① とびきいなり 知らないな。だいぶ遠くまで来たぞ。どうしよう。

バスに乗るお金もないよ。

子供② とにかく、少し休もう もう疲れたよ。神社にベンチでもあるんじゃないか。

子供③ 大きな銀杏の木だな。木の下で休もうか。



イチョウの木 おーい ぼうずたち おーい ぼうずたち。 道に迷ったのか。

子供① おまえ、何か言ったか？ 何がはげぼうずだ！

子供② おれは何も言っていないよ。

子供③ ぼくも 言っていないよ。

イチョウの木 おーい ぼうずたち、 おれの話でも聞かないか！

子供① 大変だ、この木が何かしゃべっているよ。



子供② 本当だ。それにしても大きな木だな。おじいさんの木だ。

子供③ この木が何か言いたがっているんじゃないか。

イチョウの木 おーい。おまえたち おれの話聞いてくれるのかい。

子供たち(声を揃えて) うん、聞かせて、聞かせて



イチョウの木の話

むかしむかし まだみんなのおじいさん、おばあさんも生まれていなかった頃

このじんじあのけいだいには もっと もっと たくさんの

いちょうの木がはえていたんだ。

太くて大きな木が一本 それがオレだ。

ほかの木はは、まだ細くて 若かったんだ

こんなオレたちを たくさんの子供たちが ゆらしたり、

登ったり、にぎやかだったな。



秋になると みんな たくさんのギンナンを実らせた。

たくさんのギンナンを 小鳥が集め ねずみが集め 子供たちが集め

そりゃあ にぎやかだった。



冬が近づき 葉っぱが黄色に染まるころ おれたちは 太陽の光で かがやいた。

だれかが、金色に光っていると伝えてくれたんだ。うれしかったな。

冬になると、雪が降った

小鳥たちが あわてて かくれる場所をさがしたぞ。

オレの太い、大きな枝が 鳥たちを雪から守ってやったんだ。すごいだろ。



そして、また春が来たんだ。

オレたちはいっせいに葉っぱをつけて、みんなを喜ばせたぞ。また、たくさんの子供た

ち、動物たちが遊びに来てくれるんだと、待ったんだ。

ところが、その年から だれも遊びに来なくなったんだ

人間の世界で 戦争が始まったんだ。

時々、 オレたちの上を 大きな音を立てて 見たこともないような飛行機が飛んで

いくんだ。しばらくすると、遠くの方から どかーん どかーん という音

そしてサイレンの音が聞こえてくるんだ。

昼も 夜も こわかったな。



あれは忘れもしない。 1945年 3月の寒い夜だった。

いつもより たくさん たくさん 飛行機の音が 聞こえるんだ。

オレの すぐ近く 頭の上で 耳の横で 目の前で 大きな音だった。

人間の叫び声

子供たちのなき声

サイレン (写真と効果音)

真冬のような寒さが 真夏のようなあつさに 変わっていたんだ。

町中が燃えていた。あっちも、こっちも

そんな中 たくさんの人間が 動物が そして子供たちが

オレのいる この神社の 中に逃げてきたんだ。

オレたちは決めたんだ。

「おーい 今こそ オレたち イチョウのすごさを見せつけてやろうじゃないか。」

すると あの若い木たちも言ったんだ。

「よーし、わかった。いっちょ ふんばるか・・・」

おーっ!(みんなの かけ声)

実は オレたちは 火には強いんだ。

オレたちの体の中には たっぷりと 水がしみこんでいる

だから なかなか燃えやしない。

「おーいみんな おれたちは こげてもいい。 こげても こげても がんばるぞ。」

「人間たちを守るんだ」(若い木)

「動物たちを守るんだ」(若い木)

オレたちは ほのおで 真っ赤になってもがんばった。

真っ赤に 真っ赤に 燃え上がったんだ。

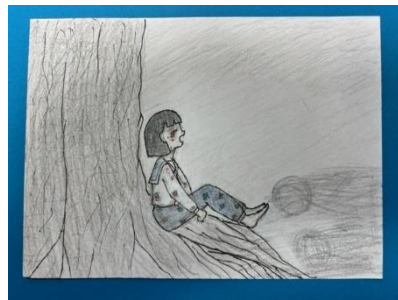
朝日がのぼるころ ようやくしずかになった。

町が消えていた



人間の町が 消えていた

オレたちのまわりに にげてきた人間たち 動かなくなっていた。
でも 何人かが生きていた。
全員は守ることはできなかったけど 助けることができたんだ。
オレたちは がんばったんだ



オレたちも 黒こげだった そしてかれてしまった。
おれは 長く長く ねむってしまった。



「イチョウの木さん イチョウの木さん イチョウの木さん」(かわいい声)
あれから何年 たっていたのかな。
足もとから かわいい小鳥たちの声が聞こえたんだ

「イチョウの木さん 小さなめが出ているよ。
真っ黒な みきから 小さなめが出ているよ。」



「おーい みんな オレたちも生きているんだ。
にんげんをまもったオレたちにも 新しいめが出ているんだ。」

(再び現代)

イチョウの木

おーい ぼうずたち 聞いていたか。 おれの話

子供① すごいんだね。ただのイチョウの木だと思っていたけど、見直したよ。

イチョウの木 オレの後ろに まわってみな

子供② なんかかくしてあるのかな？

子供③ うわっ、 真っ黒になっている。こげた においが 今でも するよ。

イチョウ そう、これがオレのじまんだ。あの夜、オレがみんなを守った「しょうこ」
だ。

かっこわるいけどな

子供① そんなことはないよ。さいこうにかっこいいよ。なっ。みんな。



子供の声

イチョウの声は、もうその後、いくら待っても聞こえませんでした。
ぼくたちは 夢でも見ていたのかもしれない。
でも、77年前に、僕たちの住む墨田区に たくさんの爆弾が落ち
町中が焼け、 たくさんの人が亡くなったことは事実です。
決して忘れてはいけない事実です。

そして、もう一つの実事

たくさんの人の命を守ったイチョウの木が
僕たちの墨田区にあるということ。

そして、今でも毎年 葉をつけていること
このすてきな事実を ぼくは 忘れません。

まもなく 春 イチョウの木に わかばが出る季節です。

平和集会 今年も 私たちが描いた絵と まとめたお話を中心に行いました。
平和について。是非、クラスでも、家でも考えてみてください。
また、神社のイチョウの木、是非見に行ってみてください。
すみまるくんのバスになると 12番目にとまるバス停が
「とびき いなりじんじゃ」です。

これで今年の平和集会を終わります。